

抗微生物薬適正使用の手引き 第4版について

第6回 AMS作業部会（R6.11.19）の提案事項の対応

- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）等に対するセフィデロコル（CFDC）の臨床的効果について、新規抗菌薬の使い分けの観点も含めて、アップデートが必要ではないか。また、薬剤耐性緑膿菌（MDRP）、薬剤耐性アシネトバクター感染症（MDRA）等の感染症について、CREと同様に診断・治療のフローチャートを作成してはどうか。

⇒ CRE 感染症治療等のアップデート及び CRPA感染症等の診断・治療のフローチャートを作成した。

- 細菌性肺炎が疑われないCOVID-19（軽症・中等症）症例において、抗菌薬の不必要使用に言及してはどうか。

⇒ 医科編（一般外来における成人・学童期以降の小児編）にて追記した。

- 全体的な内容整理を図ってはどうか。

- 第3版の引用文献は、合計で 51/228 ページ（22.4%）を占めるため、引用文献の記載は PMID のみとするか、QRコード化する。

⇒ 引用文献の記載はそのままに、表記法を統一した。

※ 赤字は提案に対する対応内容を示す。

新規提案事項

● 章立ての変更

医科・外来編（第3版における成人と学童期以降の小児、乳幼児を含む）、医科・入院編（第3版における総論を含む）、薬剤耐性菌感染症の抗菌薬適正使用編（別冊・補遺を含む）、歯科編（新設）の4部構成としてはどうか。

※ R6年11月時点では、医科・外来編（学童期以降の小児と成人、乳幼児）、医科・入院編（薬剤耐性菌含む）、歯科編と提案。

- 抗微生物薬適正使用の手引き第4版の主な対象者の表について。
- 用語集の【抗菌薬名】【一般名】を【一般名（慣用名）】【商品名】としてはどうか。
- 「在宅における抗微生物薬適正使用について」、「小児における皮膚軟部組織感染症」の掲載箇所について。

抗微生物薬適正使用の手引き第4版の主な対象者

対象者

- ・ 医科編の主な対象者は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師として、以下の表の通りとした。
- ・ 歯科医療機関のうち歯科診療所が90%以上を占めており、また、第三世代セファロスポリン系薬が歯科診療所の約半数で第一選択薬として処方されていることから*、本手引きの**主な対象者は歯科診療所の歯科医師**とした。

*<https://doi.org/10.1111/jphd.12663>.

対象医療従事者	はじめに ・ 総論	一般外来における成人 ・ 学童期以降の小児編	一般外来における 乳幼児編	入院患者における 抗微生物薬適正使用編	別冊・補遺	歯科編
感染症診療・感染対策（AST、ICT）に従事する 病院勤務医師	●	●	●	●	●	○
上記以外の病院勤務の医師	●	●	●	●	○	
診療所勤務医師	●	●	●			
感染症診療・感染対策（AST、ICT）に従事する 看護師	●	○	○	●	○	○
上記以外の病院勤務の看護師	●	○	○	○		
診療所勤務看護師	●	●	●			
感染症診療・感染対策（AST、ICT）に従事する 薬剤師	●	●	●	●	●	○
上記以外の病院勤務の薬剤師	●	○	○	○		○
薬局勤務薬剤師	●	○	○			○
感染症診療・感染対策（AST、ICT）、 微生物学的検査に従事する臨床検査技師	●	○	○	●	●	
上記以外の臨床検査技師	●					
病院勤務歯科医師	●			○	○	●
診療所勤務歯科医師	●					●

●：知っておくべき内容、○：知っておくことが望ましい内容

【医科編】の主な改訂ポイント

- 時点更新
- 表記揺れの修正

（外来編）

○ 成人編

- 細菌性肺炎が疑われないCOVID-19（軽症・中等症）症例において、抗菌薬の不必要使用について言及
- 「在宅における抗微生物薬適正使用について」を追記

○ 学童期以降の小児及び乳幼児編

- 「小児における皮膚・軟部組織感染症の治療について」を追記

（入院編）

○ 別冊・補遺

- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の届出基準変更（令和7年4月）に伴う時点更新
- 以下の感染症における新規抗菌薬の使い分けについて、フローチャートを追加・時点更新

新規

- AmpC β-ラクタマーゼ産生腸内細菌目細菌やカルバペネム耐性緑膿菌（CRPA）の標的治療
- アシネトバクター・バウマニーやステノトロフォモナス・マルトフィリア検出時の評価及び治療
- *Clostridioides difficile* infection 診断と治療

時点更新

- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の標的治療

【歯科編】で想定している患者群

- ・ 抜歯、インプラント埋入時における手術部位感染や感染性心内膜炎の予防のために抗菌薬が必要な患者
- ・ 歯性感染症の治療のために抗菌薬が必要な患者
- ・ 抗菌薬投与の際に問題となりやすい腎機能低下患者
- ・ ペニシリンアレルギーが疑われる患者

【歯科編】の主な構成

- ・ 歯科領域における抗菌薬処方現状
 - 国内外の歯科における抗菌薬の処方状況について
 - 国内の病院歯科及び歯科診療所における抗菌薬の処方状況について
- ・ 歯科治療における抗菌薬の予防的投与について
 - 抜歯及びインプラント埋入時における、国内外で推奨されている経口抗菌薬や投与方法について
 - 歯科治療における感染症心内膜炎への予防的抗菌薬投与が必要な病態、処置内容について
- ・ 歯科治療における抗菌薬の治療的投与について
 - 歯性感染症治療における、国内外で推奨されている経口抗菌薬や投与方法について
 - 第三世代セファロスポリン系薬が推奨されない理由について
- ・ 腎機能低下患者への対応
 - 腎機能低下患者に対する抗菌薬の投与に係る注意点等について
- ・ ペニシリンアレルギーが疑われる患者への対応
 - 抗菌薬アレルギーが疑われる患者の評価方法や評価後の対応について
- ・ 抗菌薬の流通状況を踏まえた処方
 - 供給制限のある抗菌薬及び代替となる抗菌薬について

今後のスケジュール（案）について

	R7年度					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
厚生労働省						公表
審議会等		5/19～5/25 AMS作業部会 持ち回り 審議	6/24 AMS作業部会 (WEB)	7/31 薬剤耐性 (AMR) 小委員会 (WEB)		9月（予定） 厚生科学審議会 感染症部会 (WEB)
作業班	執筆	一次 原稿	二次 原稿	三次 原稿	修正 作業	

(参考) 医科編の執筆担当者

<外来・成人>	所属・職位
☆ 山本 舜悟	大阪大学大学院医学研究科変革的感染制御システム開発学寄付講座 准教授
本田 仁	藤田医科大学病院感染症科 教授
北 和也	やわらぎクリニック 院長
<外来・小児・乳幼児>	
☆ 宮入 烈	浜松医科大学小児科学講座 教授
笠井 正志	兵庫県立こども病院小児感染症科 科長
永田 理希	医療法人社団希慥会ながたクリニック
堀越 裕歩	東京都立小児総合医療センター感染症科 医長
<入院編>	
☆ 早川 佳代子	国立国際医療研究センター病院総合感染症科 医長
狩野 恵彦	厚生連高岡病院総合診療科・感染症内科 診療部長
篠原 浩	京都大学医学部附属病院検査部・感染症制御部 診療助教
谷崎 隆太郎	市立伊勢総合病院内科・総合診療科 副部長
西村 翔	兵庫県立はりま姫路総合医療センター感染症内科 診療科長
牧野 淳	東京都立墨東病院集中治療科 部長
鈴木 早苗	国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター 特任研究員
中村 竜也	京都橘大学 健康科学部 教授 ※ 微生物学的検査全般

☆：担当班のリーダー

(参考) 歯科編の執筆担当者

<歯科領域>	所属・職位
☆ 松野 智宣	日本歯科大学附属病院口腔外科 教授
沼部 幸博	日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授
岸本 裕充	兵庫医科大学歯科口腔外科 教授
太田 耕司	広島大学大学院医系学研究科 口腔健康科学講座 教授
田頭 保彰	東京科学大学大学院医歯薬総合研究科 統合臨床感染症学分野 講師
金子 明寛	池上総合病院歯科口腔外科・口腔感染センター長
伊藤 真	かくたま歯科医院 院長

☆：担当班のリーダー